



先輩からのアドバイス

琉球大学の大学院生から、勉強法、レポートの書き方などを教えてもらいました。ぜひ参考にしてみてください！

①おすすめの勉強法

勉強の進め方に悩む花子さん、先輩の太郎さんに相談してみました。

花子「おすすめの勉強法ってありますか？」

太郎「勉強法なのかはよくわからないけど、毎日勉強した量を記録してるよ」

花子「それは授業を受けた時間も含めてですか？」

太郎「うん。もちろん授業も勉強時間に含めるんだけど、読書とか運動も勉強時間に含めるよ」

花子「勉強した時間以外も記録するんですね。じゃあ漫画とかゲームに使った時間も記録するんですか？」

太郎「そういうのは記録しないよ。料理とか掃除の時間は記録するけど」

花子「それは何が違うんですか？」

太郎「漫画やゲームみたいに慣性で始めがちなことと、「よし、やるぞ」って決めて始めたことを分けるようにしているんだ。目的がないものは終わった時に空しくなる」

花子「なるほど。私はよく用もないのにパソコンを起動してネットサーフィンとかしちゃいます。それで気づいたら夜中の2時とかになってたりして...」

太郎「大学は自由な時間が多いから、時間を持て余しちゃうことが多いんだ。でも時間を記録していると、だらだらと時間を使うことがなくなる」

花子「時間を使っているという意識を持つことが大切ということですか？」

太郎「そう。意識して時間を使うようになると、毎日にメリハリが生まれる。メリハリがあると有意義な時間を過ごせるんだ」

花子「うーん。でも勉強法とは少し違いますね」

太郎「そうだね。だけどきちんと時間を認識して、しかもそれを勉強とみなすんだから、有意義に時間を使おうとする気持ちが芽生えるよ。時間を使うことに責任を感じるようになるからね。そしたらきっと、高い意識をもって勉強に向かうようになる」

花子「なるほど。学習記録をつけると漫然と勉強することもなくなるというわけですね」

太郎「僕はそう考えています」

花子「ありがとうございます。参考になりました」

（理工学研究所 院生）

②レポート作成に向けて

レポート作成にあたって、私は1つの視点に絞らず、2つあるいは3つの視点から問題点を捉え、その中から共通点や類似点、相違点などを見出し、それらに基づいて書くことをレポート作成のベースとしています。勿論、レポートのテーマによって書き方は多種多様ですが、1つの視点のみに絞って書くことが時には表面的に問題を捉えてしまい、その問題やテーマが抱えている真の問題追及の妨げとなり、問題に対しての視野を狭めてしまう可能性があります。また、主観的な内容になりがちになる可能性もあるため、様々な視点から問題点を捉え1つに集約することで主観的ではなく客観性のあるより具体的な論を展開することができます。

そこで、1つの問題を追及するためにはその問題を多面的に捉える必要があります。そのためには同じ分野に限らず、異なる分野の本や雑誌、論文等から様々な情報を得ることが重要です。様々な分野の情報を得ることによって、従来の課題や現在抱えている課題、さらに新たに今後の課題等を浮き彫りにすることができます。また、レポートは感想文などのような主観に基づいたものではなく客観性が求められるので、それらを交えた上で自分の論を展開していく必要があります。

1つのレポート作成の過程で得た知識の中には勿論、使用しないものも必ず出てくるかもしれませんが、しかし、もしいつかその知識が使える場面が来るのなら、学んでいても損はないですよ。

（教育学研究所 院生）

③図書館を活用してレポートを書こう

レポート等を書く際には以前読んでいたものが思わぬときに役に立つ場合があります。レポート制作など何か目的をもって訪れる以外にも、普段時間のあるときに立ち寄って自分の専門や興味のある分野の書架を眺めていって何となくでも「面白そうだなあ」と思った本に目を通しておくと、そこで楽しみながら得た情報や知識が、後々課題を出されたときに自分の意見をサポートしてくれるものになることがあると思います。図書館入口に入ってすぐの、さまざまな分野の本の中から1分野が特集されているコーナー（企画展示コーナー）からも意外な本との出会いがあるかもしれません。

もちろん、そうした偶然の発見以外にも図書館の検索サイトを活用して資料を探したり、取り寄せたり、カウンターや相談窓口で相談してみたりと、図書館を活用して探している情報や知識とつながる手段がいろいろあります。期限が迫るとやはり焦ってしまうので、時間も気持ちも余裕がある間に少しずつでも（偶然の発見も含めて）資料を集め、館内の閲覧室や自宅など自分の好きな場所で読む・考えることに時間をかけられるようにしたいですね。

（人文社会科学研究所 院生）

このガイドは、平成25年度レポート相談窓口相談員を担当した大学院生が「図書館の使い方ガイドブック」（平成25年度作成）に寄稿したものを抜粋した。